

透析時間を利用した足浴の試み

田村 法子 木戸 久子 馬越 遥 草地 陽子 佐藤真由美
大野呂和栄 小井 正美 秦 佳子 松田 浩明 岡 良成
高津 成子 宮崎 雅史

腎不全センター 幸町記念病院

キーワード：足浴, ASO, 透析時間

I はじめに

近年、透析患者の高齢化や、閉塞性動脈硬化症（以下ASOとする）、糖尿病などによる末梢動脈疾患から下肢病変を来し下肢切断に至る症例が増加しており、フットケアのニーズは一層高まってきている。

そこで当院では月に1回フットケアチームを含む褥瘡委員会を開き、年に2回チェックリストを用いて下肢観察を行っている。

当院の患者は介護タクシーなど社会資源の活用や家族の送迎で通院している患者が多く、透析後に時間を調整する事が難しいため、透析中に足浴や下肢マッサージを実施してきた。

今回、当院における透析時間を利用した足浴の試みについて報告する。

II 当院の現状

平成25年3月31日現在、当院の維持透析患者は217名、原疾患として糖尿病性腎症36.9%であり、ASOは全透析患者の約41.9%を占めている。（図1）

III フットケアの対象患者

全患者に年に2回チェックリストを用いて下肢観察を実施

フットケアの適応：血液循環障害、自覚症状、外傷等下肢病変のある患者

IV 足浴方法、およびその効果（炭酸泉の利点含む）

【方法】 全身状態確認後、38～40℃の炭酸泉使用し足浴施行。ガーゼを使用し垢を落とし、下肢マッサージを行い血行促進を図る（図2）

【効果】

- ・血管拡張作用
- ・血流改善
- ・自律神経の安定（免疫力アップやリラックス効果）

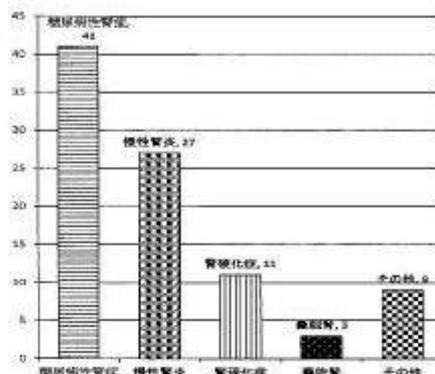


図1 ASO患者91名の原疾患グラフ

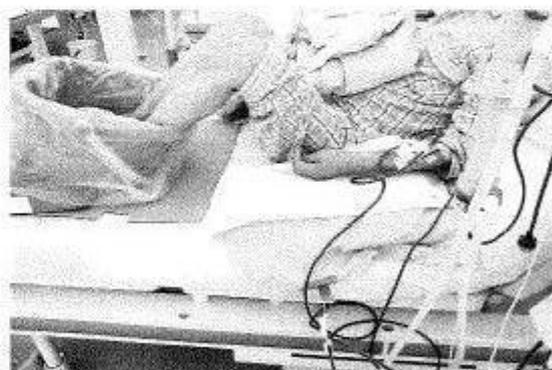


図2 透析中の足浴風景

- ・温熱による保温効果
- ・ASOの改善
- ・糖尿病性神経障害の予防

V 症例内容

- 【症例①】 80歳男性 原疾患：腎硬化症
既往：糖尿病 脳梗塞 急性心筋梗塞 H23年2月より透析導入
下肢経過：H24年1月から左第3趾潰瘍形成し、5月に切断（図3→4へ経過）
- 【症例②】 71歳男性 原疾患：糖尿病性腎症
既往：H19年急性心筋梗塞 12月より透析導入



図3 症例①の処置前



図5 症例②の処置前

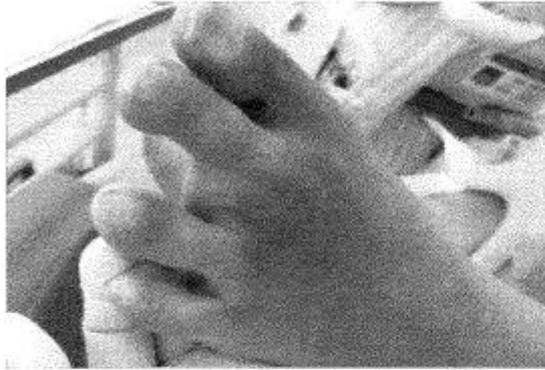


図4 症例①の処置後

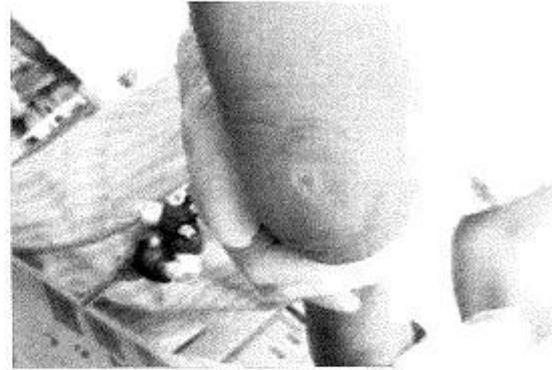


図6 症例②の処置後

H24年慢性硬膜下血腫

下肢経過：H25年4月14日 右踵部に褥瘡形成
(図5→6へ経過)

【症例③】67歳男性 原疾患：糖尿病性糸球体腎硬化症
既往：H3年直腸癌にてストーマ造設 脳梗塞 H24年2月より透析導入

下肢経過：H25年4月14日自宅のストーブで右第2～5趾熱傷(Ⅱ度) フットケア導入し、2013年9月創傷治癒

【症例④】83歳男性 原疾患：糖尿病性腎症
既往：H11年急性心筋梗塞 H16年両内頸動脈狭窄症 H18年7月より透析導入

下肢経過：2007年7月右第2趾潰瘍形成し治癒したが、ハイリスクの為ケア続行中

全症例に、処置として3回/週(外来透析日)生食洗浄、ガーゼ交換施行

ケアとして足浴(1回/週)・下肢マッサージ(3回/週)施行

VI 考察

・足浴・下肢マッサージは、循環動態の負担が少なく、血圧の変動が少ない。そのため透析患者に適し

ており、透析中にも実施可能であり、家族や介護タクシーの迎えで時間が限られている当院の患者のニーズに適しているのではないかと考える。

・足浴には血管拡張作用、血流改善、自律神経の安定、温熱による保温効果があり、下肢病変悪化予防につながると考える。

・Dossaらは下肢切断術後の死亡率は、非透析患者が7%であるのに対し透析患者では24%と高いと述べている。そのためフットケアを行い下肢状態の観察を行う事は重要であると考ええる。

VII 結果・まとめ

足浴・下肢マッサージを導入したことにより、今回の症例では下肢病変の悪化が見られなかった。下肢病変の予防や悪化を防ぐ事を目的として、透析時間を利用したフットケアを今後も続けていきたい。

VIII 参考文献

- 1) Dossa, CD. et al : J.Vasc. Surg 20 (1) : p.14-19, 1994
- 2) 長谷川素美：透析ケア 透析患者のフットケア。メディカ出版 Vol.18 No.11 : 2012.11